Machispo Otsu Takefree paper Irodori-plus
まちがいっとけないを良質なおせっかいで応援するまちスポ大津のフリーペーパー
2023年1月
いろどり+mini plus

発行：特例認定NPO法人まちづくりスポット大津
住所：滋賀県大津市二本松１番１号ブランチ大津京内
https://machispo-otsu.net

とびだす！ KON-KON! おじゃします 6

災害時の情報発信拠点としてコミュニティラジオ局「ＦＭおおつ」を起ち上げ、現在もラジオ局の特性を生かして様々な活動を展開されている古田誠(ふるたまこと)代表にお話をお聞きました。

聞き手：藤田（以下、まちスポと表記）

活動名 株式会社FMおおつ 代表 古田誠さん

古田さんの近影。雑然としているのがお気に入りという放送局の壁をバックに。

和歌山県民の危機意識

まちスポ：古田さんのご経験のなかでも今回は主に災害対策との関わりに焦点を当ててお聞きしたいのですが。

古田：それでは、まず50歳で和歌山県和歌山市のラジオ放送局に転身したところからお話しましょう。和歌山県といえば南海トラフ地震が発生すれば津波などで8万人の死者がでると予測されています。現地の人たちからすると命を守るにはどうしたらよいか、待ったなしの課題であり、それはもう必死になって対策を考えていました。

ただ、私が行った当時は津波から逃げるのを諦めているような雰囲気もあって、それというのも串本とか御坊、田辺といった海岸線の地域にはとにかく高台がないのです。近くの山まで7kmも8kmもあるのに走って逃げられると思いますか？

まちスポ：とても逃げられませんね。

古田：例えば、海抜1～2mの地域にあった串本町役場（現在は高台に移転）には事務所の壁一面に救命胴衣がズラーっと並べかけられていました。

これはもう完全に津波に飲まれることを前提とした準備なんですよね。散々流されても生きてさえいれば町民の救助に向かえると考えているのです。その悲壮ともいえる覚悟には大変なショックを受けました。

まちスポ：凄いお話です…。

古田：ここ数年で建物の高台移転など津波対策は随分と進んだ感がありますが、それでもJR串本駅など未だに低海抜の地帯から高台への移転ができていない建物もあって、まだまだ十分とは言えない状況なのです。

まちスポ：ご自身は和歌山でどのような活動をされていたのですか？

古田：ラジオ局勤務の傍ら災害の研究をしていました。大学の先生方と一緒に和歌山の海岸沿いの地域を調査してまわったりですね。

また、NHK和歌山や和歌山放送、和歌山大学など、オール和歌山でプロジェクトを組んで全国の高校生達に臨時災害ラジオ局（臨災局）の運営を体験してもらう活動をしていました。

もしも、大人達はみんな死んでしまって高校生達が生き延びたならば彼らに必要な情報の発信をやってもらわなければいけない。そんな思いで始めた活動です。

実際に、先般の熊本地震では放送局が被災し、放送機材を掻き集めた臨災局からの情報発信が大きな成果を上げたんですよ。

まちスポ：和歌山県だからこそ伝えられる危機意識ですね。若い世代に考えてもらったことにも大変意義を感じます。

古田：和歌山には結局9年間いたことになるのですが、危機意識が高い方々と一緒に活動するうちにだんだんと自分の地元はどうなのだろうと考えるようになりました。

PROFILE

毎日新聞社で28年間記者として活動。記者をしながら毎日放送とテレビ番組を制作したりデジタル分野の仕事にも携わる。50歳を過ぎて新聞社を早期退職。何かに導かれるように和歌山放送IT戦略室長に転身。図らずも深夜ラジオに熱中していた頃の夢をかなえる。和歌山ではラジオ放送局の創業・運営のノウハウを吸収するかたわら、和歌山県情報化推進協議会の防災研究部会メンバーとしてFMラジオを使った災害時の避難所運営実験を研究するなど勢力的に活動。
60歳を機に地元大津に戻り災害時の情報発信拠点として2018年にFMおおつを創業、現在に至る。

FMおおつ聴取アプリ

下のQRコードより「FMプラプラ」をダウンロード後に「FMおおつ」を選択してください。

iOS 版アプリ　Android 版アプリ

古田：活断層が走っている以上、大津にとっても地震は喫緊の課題です。熊本地震で益城町が崩壊したことからも活断層地震の恐ろしさは十分にわかりましたよね。

それで、大津にも災害時の情報発信拠点として小エリアのラジオ局が必要だと思い、60歳を機に大津へ戻ってラジオ局を起ち上げてみようとなったわけです。

仲間達と手づくりのラジオ局

まちスポ：ラジオ局の起ち上げはお一人でされたのでしょうか？

古田：それはまあ、1人でやっても面白くないし、ここにいる山田さんを始め古くからの仲間を巻き添えにしました(笑)。

貫禄たっぷりのインタビュー風景。　右は40年来の盟友でFMおおつ番組ディレクターの山田隆さん。「僕は古田の被害者の会代表」と嘆きながらも楽しくて古田さんの磁場から離れられない。

山田：古田さんはいつも突然だから(笑)。思い立ってから行動に移すのは早かったです。そこからいろいろとハードルがあって開局までには随分と時間がかかりましたけどね。

古田：なにしろ、コンサルには頼らないで一から手作りしましたので大変でした。

まちスポ：山田さんは、ラジオ局を手伝ってほしいと言われて迷いましたか？

山田：いや、全然迷わなかったですよ。古田さんの書いた企画書が凄かったから。今でも困ったときに見返すと参考になる、まさに事業の骨格ですよ。それに何より面白そうじゃないですか。還暦を超えてラジオ局をやるだなんてワクワクしましたよ。

古田：山田さんには大津で活躍する人を紹介する番組をやってもらいたくてね。今は土曜日の午前10:45～の放送の「校区で行こう」という番組を担当してもらっていて、毎回大津で活躍している方々をお迎えしてのトークが展開されいます。

まちスポ：古田さんは最初から先々まで事業のイメージができていたのですね。すぐに共鳴できたのには、お二人がラジオ世代だということもあるのでしょうか？

山田：はい、私たちは間違いなくラジオ世代ですし、ラジオを身近に感じていたっていうのは確かにありますね。

古田：それから、むかし一緒に「水の国」っていう地域のミニコミ誌をつくっていてメディアとしてのノウハウがあったことも大きいです。活字が音声に変わっても共通することが多いですからね。

ふるさと大津への想い

まちスポ：大津ってどんなまちですか？

古田：山田さんと知り合った1970年代後半の大津は新しいことを積極的に取り入れて失敗してもチャレンジし続けていたまちで、その頃の大人たちには尊敬の念がありましたね。

しかし、それ以降の大津は全く新しいことをしない、時間が止まっているかのような、それでいて良かった部分を保てていない。過去を踏襲するのが手堅いと思い込んでいる。

はっきり言って何の面白みもない状態になっているので、そんな大津をラジオで面白くしていきたい思いがありますね。

見直してほしいラジオの有用性

まちスポ：実際に大津でラジオ局をやってみていかがですか？

古田：ラジオはいわゆる衰退文化ですから、予想していたとはいえやはり運営は大変です。行政資本が入っているラジオ局も多いなか、うちは完全自活ですから大変です。

何よりいちばん想定外だったのは未だに大津市との間で災害時における連携協定を結べていないことですね。大津市民の100%が受信できる電波ではない（およそ30%が難聴エリア）というのがその理由だそうです。

難聴エリアの課題についてはインターネットのサイマル放送（アプリで手軽に聴取可能）により補完しつつありますので、それよりも、そもそも災害は起こりっこない、もし起こったとしてもLINEやSNSがあれば情報伝達には充分だと考えているのだと思います。

確かにSNSは便利ですが、それに頼り切るのは危険であり、あらゆることを想定して少しでも多くの情報伝達手段を残しておくべきだと思うのです。

まちスポ：最後にPRをお願いします。

古田：FMおおつは手軽にスマホで聴くことができます。地域のお役立ち情報を知るツールとして、災害時の備えとして、ぜひ聴取アプリをダウンロードしてみてください。

また、普段は使わなくても電池式のラジオは防災グッズとして欠かせないアイテムです。乾電池1～2本で半年はもちますし、大勢の人が一斉に使用したとしても電話やインターネットのように回線がパンクすることもありません。

災害時においてこれほど有効な通信手段は他にありません。優れた情報ツールであり素晴らしい文化なので、もっと多くの方にラジオを愛してほしいですね。

まちスポ：今回は非常に貴重なお話を聞くことができました。滋賀県でも琵琶湖西岸断層地震が発生した場合の県内被害想定は死傷者14,000人、避難者82,000人、大津市では4人に1人が被災するという未曾有の災害規模が予測されています。

災害に強い地域社会の形成は急務であり、今後まちスポ大津としても様々な立場の方々と連携して防災意識を啓発する企画を打ち出していきたいです。

INFORMATION

■昨年10月、FMおおつ様の番組にまちスポ大津とハッシュタグ大津京の会員様がゲスト出演しました♪

■2月5日(日)には、ブランチ大津京でキッズ向け防災スタンプラリーが開催されます。当日はまちスポ大津もスタンプポイントであり、防災クイズや非常食の試食など体験企画をご用意していますのでぜひぜひお越しください♪

■ 誌面に関するお問い合わせ

特定非営利活動法人まちづくりスポット大津
〒520-0021 大津市二本松1番1号ブランチ大津京内
MAIL: info@machispo-otsu.net
https://machispo-otsu.net
TEL:077-511-9814 FAX:077-548-6758